香美市文芸

風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

初日の出雪に隠れて茜色　岡村　和躬
だんだんと風の強まる冬の日々　小野寺朱実
愛想よく娘遍路は言葉くれ　高野　和一
猪鍋や猪首でんと肩に据え　福留とものり
存在にこだわりはなし藪椿　森本　幸美
漁り火を数へて待つや春の月　山﨑　貴子
そば好きの友に土産のそばを打つ　山﨑　寿美
水仙の香り漂い餅を切る　有澤　春江
文旦を剥けば父母在りし頃　原　美幸
海碧き足摺岬椿咲く　北村千鶴子
女正月酢を打つ飯の艶めけり　森本　純喜
茎立ちて花壇に高さ生れけり　千頭　野草

◆かがみ野俳句会◆

梅東風や名も告げざりし供華の主　佐竹　洋子
涅槃西風コインで擦る夢見籤　鍵山　和枝
小庭にも陽射したっぷり冬木の芽　佐藤　幸
めぐる忌に集ひし寺の梅寒し　利根　弘子
おぼろなる城址の森に昼の月　古川　信子
草の芽の覗く高野の石畳　小松　愛子
漬物の水のあがれる霜夜かな　中澤　美晴
百畳の大凧たぐる三世代　森本　佳代
天寿とも同志さみしや隙間風　山﨑　鈴子
如月の波形確かむ心電図　吉田　芳

◆韮句会◆

家祈祷に旧正祈る習ひかな　吉村　幹愛
本坊の式台広し地虫出づ　公文　春紀
玉串の榊まっ直ぐ春祭　岡本かほる
鳴き交はす鳶の声澄む山の春　高橋　章
建国日捨田捨家に普き日　北村　幸子
蕪漬けのこの家の味や雛まつる　甲藤　卓雄
湖へ崖なす棚田涅槃西風　野崎　典子
盆梅にしばらく佇ちて掃きはじむ　北村　里子
おちょぼ口に咲き初むひとつ紅椿　明石　英子
結納も飾り鯖鮨雛の膳　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

菜の花を咲かせ失業中と云ふ　乾　真紀子
捻じれ世を直す術なく梅真白　奥宮さとみ
なほ続く畑の仕事やよなぐもり　久保　貴女
三代を継ぎ来し老樹剪定す　久保内鏡子
初薬師お香焚く手の宝皺　黒岩　幸女
寒紅や嫗に高きこころざし　黒岩千英子
浅春の捨田に滲む水の筋　小松志津男
山売れぬ幾年月ぞ山笑ふ　小松　隆之
柚子畑に寒肥を振る独り言　小松　完
界隈に見かけぬ毛色うかれ猫　小松　昇
雪晴れて薄日差し込む塩の道　杉山　春萌
切干の反り返る見て身を正す　前田　欣一
つち風も三日続きや籠りがち　前田　秀女
節分の星除に書く数へ年　間崎　和代
使者のごと一声ありぬ初蛙　森本　之子
夕鴨の引きたる後の湖の青　山中　晶子
冷めきってゐる塩むすび春の風邪　山崎かずみ
例ふれば淡き水色春の風　山中　瑞輝
ラグビーのルール知らねど応援す　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

初蝶は母さんですね土手の道　安丸　槙子
影踏みに誘い出されて蕗のとう　前田美智子
電柱に尋ね人あり黄砂降る　前田　小夜
サーカスの空中歩廊春疾風　橋本　昭和
菜の花や岬めぐりのバス拾ふ　西川　常夫
干芋のえびら一面山の家　森田　菊恵
瀬頭の眩しさもまた春のもの　大石　邦男
病室の天井白し冬苺　中沢としみ
冬帽子一つ残して子の遺影　馬場　英男
四月より産科医局は十五名　明石　韮生
父方を訪う川鵜の抱卵期　樫谷　雅道
植木算一問解かす雪割草　藤野　秋穂
春めくや花舗の花々香を放ち　田村　一翠

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501　香美市土佐山田町宝町1－2－1
FAX53－5958